

【視察】京都御池中学校 (PFIによる複合施設)

7月6日に、京都御池中学校の複合施設整備事業を、常任委員会・こども青少年・教育委員会で視察しました。

- ひとつくり、まちづくりの拠点施設
- 都市部活性化、御池シンボルロードのコンセプトに寄与する
- 将来の人口増や少人数教育に対応した施設
- 体験や交流等を通じた幅広い学習機会

京都市の小中一貫教育

京都では明治2年から「番組小学校」(民間の住民自治組織単位・64の小学校)がつくられました。国による学校制度(明治5年～)の3年前、日本で最初の学区制小学校です。「番組小学校」を運営していた「元学区」は独自の財源を持ち、教育経費を負担。現在も、京都独自の自治組織として機能しています。京都では学校が公民館的機能を有しています。また、学校運営協議会(コミュニティ・スクール)が、小学校・支援学校で100%、中学校で74%設置され、小中合同の学校運営協議会も設置されています。歴史的背景を含めて教育の自治運営意識が高く、すべての小中学校が小中一貫教育制度に移行しています。

施設一体型一貫校(4-3-2制)	4校
施設併用型一貫校(5-4制)	2校
連携型一貫校(6-3制)	64中学校ブロック
その他(不登校経験者の為の学校)	3校

まとめ(横浜市の学校建替え事業)

横浜市では、平成29年5月に「横浜市立小・中学校施設の建替えに関する基本方針」を策定し、築70年を超える学校から建替えに着手する事になりました。基本方針では、学校施設の「機能改善」「学校統合」「公共施設等との複合化」を必ず検討する事とされています。建替えは総事業費が1兆円を超えるとも言われており、非常に難しい事業です。京都の複合化事例も参考にし、施設のリノベーション(事業費圧縮)や、断熱化による冷暖房フリー校舎など、様々な提案をしたいと思います。



京都御池中学校にてヒアリング ▶

今回のレポートはいかがだったでしょうか?皆様のご意見をお待ちしています。

<送付先>大岩事務所 FAX:045-442-8002

名前 TEL

住所

施設概要 地上7階+地下1階
敷地面積8千㎡(グラウンド2.7千㎡)、総床面積2万㎡

複合施設 2F~7F:京都市立 京都御池中学校
1F~2F:乳幼児保育所
1F:老人デイサービス施設、
賑わい施設(レストラン、カフェ他)

整備手法 ・PFI方式(63.2億円)の採用により▲26.9億円(VFM29.8%)の支出削減
・施設整備費52.1億円の内、約36.5億円を15年間の分割払い
・専門業者が24H常駐、各種定期維持管理業務を行う

御池中学 (5-4制の小中一貫校)
小学6年生:326名
7-9年生(中学1-3年生):735名

特徴

- 学校統合(小学6年生含む)により大規模化(1,061名)。
- 大規模化により、授業プログラムの多様化・問題行動減少などの効果あり。
- 子育て施設や老人施設との交流がある。
- 全国学力一となった御所南小などの影響でマンション建設がすすみ、エリア人口は増加中。
- 生徒数増により、オフィススペース(6~7F)は教室(学校施設)へ転換

複合施設化にいたる経緯

京都市全体で昭和33年をピークに子どもの数が減少。小規模学校化が進む中、平成13年9月に14学区と5小学校PTAから、3中学校の統合要望書が提出された。滋野中(上京中)・柳池中(中京区)・城巽中(中京区)の3校が統合し、平成15年4月から京都御池中学校となる。統合までの間、地元が「新中学校設立推進委員会」を設立。新しい中学校のあり方や新しい校舎施設について議論。以下のような地元提案が、PFI実施方針に反映されました。



▲7階建て・複合施設の京都御池中学校。
1Fにはお洒落なイタリアンレストランが outlet している。